

教育・人材育成

それぞれの旅立ち

相田陽子

エリザベスの卒業式には出席できませんでしたが、CMB でこれから寮を出るというメラニーに会いました。メラニーは MSU で 1 年間学んだものの、専攻した畜産学科は自分にはどうしても合わないと感じたこと、また親の経済状態を考えると 4 年間のカレッジ生活は長すぎることを理由に退学を決めたのです。既に KCC(大型商業施設)への就職が決まり、翌日から始まるオリエンテーションのため下宿へ向かうところでした。



卒業したエリザベス(向かって左)と
中退を決めたメラニー

2001 年に初めてアトモロックを訪ね、出席した卒業式を思い出します。メラニーは 7 名の卒業生の内の一人で、成績優秀で多くの賞をもらい、卒業生代表でスピーチをしました。ビラーン語なので何を言っているかはわからずとも、時々すすり泣くメラニーにもらい泣きし、小学校を卒業することがいかに大変かを知りました。

せっかく MSU に合格したのに退学はもったいないと感じましたが、就職を決めたメラニーと接して、彼女らしい賢い選択だとも思いました。先住民族のみならず、一般フィリピン人にとっても就職難の状況で、カレッジを卒業すれば明るい将来が保証されている訳ではないからです。

CMB 訪問時はいつも勉強していた真面目なエリザベスは、順調に 2 年間で看護助手コースを終了しました。研修が終わり次第、CMB ヘルス担当スタッフとして助産師ジョジョの助手をつとめることになっています。巡回診療や母親たちの栄養衛生教室では先輩ヘルスワーカーのリジャとコミュニティー回りをする予定です。

HANDS・あしなが奨学生 -ブラクール出身カレッジ学生の近況-

「あしなが奨学生」はもとも少数民族里親の会(略称 FOT、2002 年に HANDS に統合)の皆さんが一口 2,500 円でブラクールの教育や農業指導に当たる人材を育てるために始めたカレッジ・専門学校生のための奨学金です。

昨年度は支援会員 10 名 11 口で 4 名の学生を支えてきました。すでに何人か卒業生を出してブラクールで教師や農業指導者となっていますが、住民組合運営の小学校とハイスクールの受け入れ枠には限度があります。

今後は卒業後の進路も視野に入れて選考を進める必要があります。

- * アーノルフォ: PFP 事務所で下働きをしながらこの 3 月車両整備 2 年コースを終了しました。これから運転免許取得の実習が残っているそうです。彼の家が特に貧しいことを知っている PFP は、毎月の手当を預金できるように、1 年ほど前、彼名義の通帳(口座開設に 1,000 ペソ必要)をプレゼントしました。
- * マイラ: 最も順調と思われていましたが、単位不足のようで卒業は半年遅れの 10 月です。
- * マイケル: この 3 月に農業 2 年コース卒業式がありました。農業専門家になるには続いて 2 年間の専門課程の履修が必要です。6 月の新学期から引き続きあしなが奨学生として学ぶ予定です。
- * ロデル: 引き続きあしなが奨学生として、6 月に初等教育課程 3 年生に進級の予定です。
- * マリジェンとダッド: 1 年前に学業を中断したままで残念ながら復学を確認できませんでした。予定していたこの 2 人のための奨学金は、これまで親、親類が支えてきたものの物価高騰で自力でのカレッジ継続が難しいブラクール出身の 2 名にまわすことになりました(授業料のみ充当)。

カレッジに行って医者になりたい

2 月から新たに HANDS 会員の支援を受けることになったブラクール小学校 1 年生のエリック君。3 月の終了式では成績優良メダルを貰いました。彼を含めて、学校まで歩いて数時間かかるため、ブラクールの親類宅に寄留しながら小学校に通う子どもがかなりいます。その道と同様に、カレッジまでの道のりは長く険しいことでしょう。まずは初等教育終了を目ざしてがんばってほしいと思います。

(詩を暗唱するエリック君)

